ドクター和の〈命の終りを明るく考えるトークカフェ〉vol.1

尊厳死／安楽死／平穏死

―世界の終末期事情から エンドオブライフ・ケアを考える―

8/3(木) 19時～

エンドオブライフ・ケア協会理事 長尾和宏がもっと明るく、多角的に、命の終りを皆さんと考える時間を持ちたいという想いからこの度、ドクター和の<命の終りを明るく考えるトークカフェ>というイベントを開催することに致しました。第一回のゲストは、月刊誌『SAPIO』に〈世界「安楽死」を巡る旅〉という、衝撃的なルポタージュを連載中の気鋭のジャーナリスト・宮下洋一氏。
欧米の安楽死事情を取材し続けている宮下さんが考える、理想のエンドオブライフ・ケアとは？ そして日本の終末期事情はどのように変化してきているのか？
テレビやラジオでは絶対に知ることができない、ディープなトークが繰り広げられること必至です。また、質問コーナーもしっかりと設けて、会場の皆さんとのおしゃべりも楽しみたいと思います。
お友達もお誘いの上、お越しくださいますよう、ご案内申し上げます。



ドクター和こと
長尾和宏
NAGAO KAZUHIRO
エンドオブライフ・ケア協会理事

1958年、香川県生まれ。医学博士。尼崎市 で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで、“人を診る”総合診療を目指す。今まで2000人以上のお看取りをしてきた。近著『薬のやめどき』、『痛くない死に方』がベストセラーに。他、著書多数。エンドオブライフ・ケア協会理事のほか、日本尊厳死協会副理事長、日本慢性期医療協会理事、日本ホスピス在宅ケア研究会理事。関西国際大学客員教授としても幅広く活躍中。



ゲスト
宮下洋一
MIYASHITA YOICHI
ジャーナリスト

1976年、長野県生まれ。18歳で単身アメリカに渡り、ウエスト・バージニア州立大学外国語学部を卒業。その後、スペイン・バルセロナ大学大学院で国際論修士、同大学院コロンビア・ジャーナリズム・スクールで、ジャーナリズム修士。フランス語、スペイン語、英語、ポルトガル語、カタラン語を話す。スペインの全国紙「エル・ペリオディコ」で記者経験後、フリージャーナリストとして世界各地を取材。月刊誌『SAPIO』(小学館)、『文藝春秋』(文藝春秋)、スポーツ・グラフィック誌『Number』(同)、『世界』(岩波書店)、他多数で活躍。共同通信の外信・運動部スペイン特約記者。著書に『外人部隊の日本兵たった一人の挑戦』(並木書房)、『卵子探しています 世界の不妊・生殖医療現場を訪ねて』では、第21回小学館ノンフィクション大賞優秀賞受賞。



＊専用の駐車場はありません。日比谷公園地下公共駐車場をご利用ください。
＊危険物の持ち込みは厳禁です。

とき
2017年8月3日(木) 19時～21時
＊18時30分より受付

ところ
日比谷コンベンションホール
(日比谷図書文化館地下1階)

参加費
事前メール申し込み 2700円
当日 3000円

＊事前のお申込みなくご参加いただけますが、事前にメールを頂けましたら少しお安くご参加いただけます。事前メール申し込み希望の場合は、下記アドレス宛にメールにてご連絡ください。確認の後、整理番号を返信させていただきます。料金は当日、現金にてお支払いをお願いします。

お申込み
宛先：kitanomarupro@gmail.com(北の丸プロダクション)
件名：<命の終りを明るく考えるトークカフェ 参加希望>
内容：お名前、ご住所、お電話番号をお書きの上、送信して下さい。

共催
一般社団法人
エンドオブライフ・ケア協会

より良い医療を実現する会